



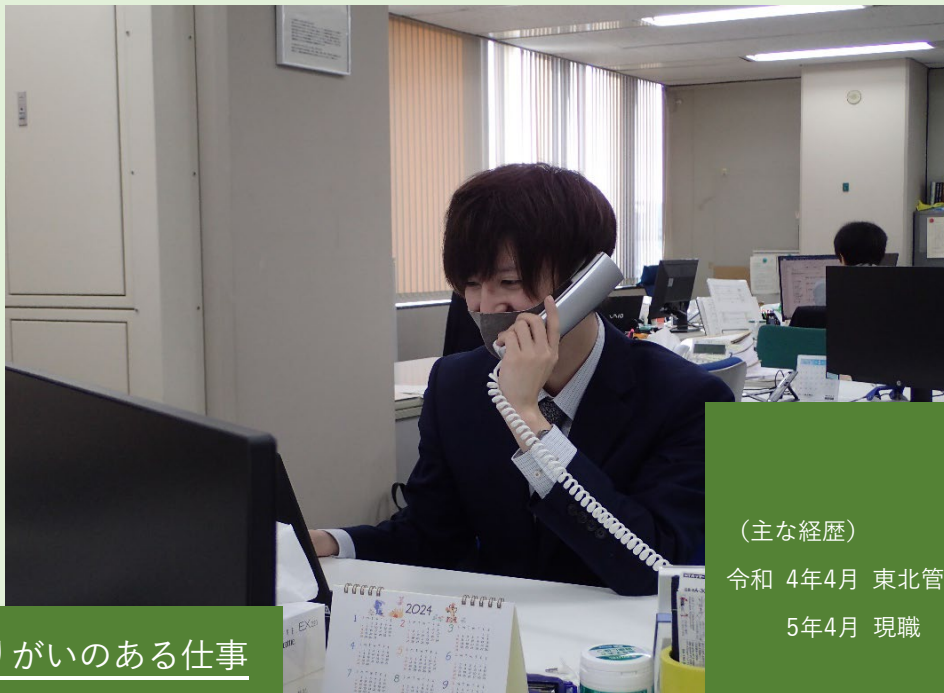
くらしの中に

総務省

東北管区行政評価局

先輩からのメッセージ

令和 5 年度版



若手もやりがいのある仕事

(主な経歴)

令和 4年4月 東北管区行政評価局採用

5年4月 現職

東北管区行政評価局 第1評価監視官室 評価監視官付

当局に興味を持っていただきありがとうございます！

私からは、1、2年目の職員がどのような業務を行っているのかを紹介したいと思います。

【1、2年目の業務】

1年目は、研修配属として管区局内の複数の課室を約4か月単位で異動し、実務研修に励みます。私は、行政相談課、首席行政相談官室及び評価監視官室への研修配属を経験しました。ただ机に向かって業務について勉強するだけではなく、上司の指導をいただきながら、実際に現地でのヒアリング調査や、行政に対する相談の電話対応をします。

2年目の職員は、正式に各課室に配属され、担当課室の年間の流れを把握しつつ業務に当たります。私が「里親制度」の調査に従事した際には、前年度以上に任せていただく業務が増え、担当を持つことにやりがいを感じました。

また、当局では様々な研修制度があります。私は今年度から総務本省主催の「効果検証プロジェクトチーム（各府省の政策効果に係るデータ分析等を研究）」に参加しており、データ分析の手法を学んでいます。上司や周囲の先輩職員も研修への参加に理解を示してくださり、意欲向上につながっています。

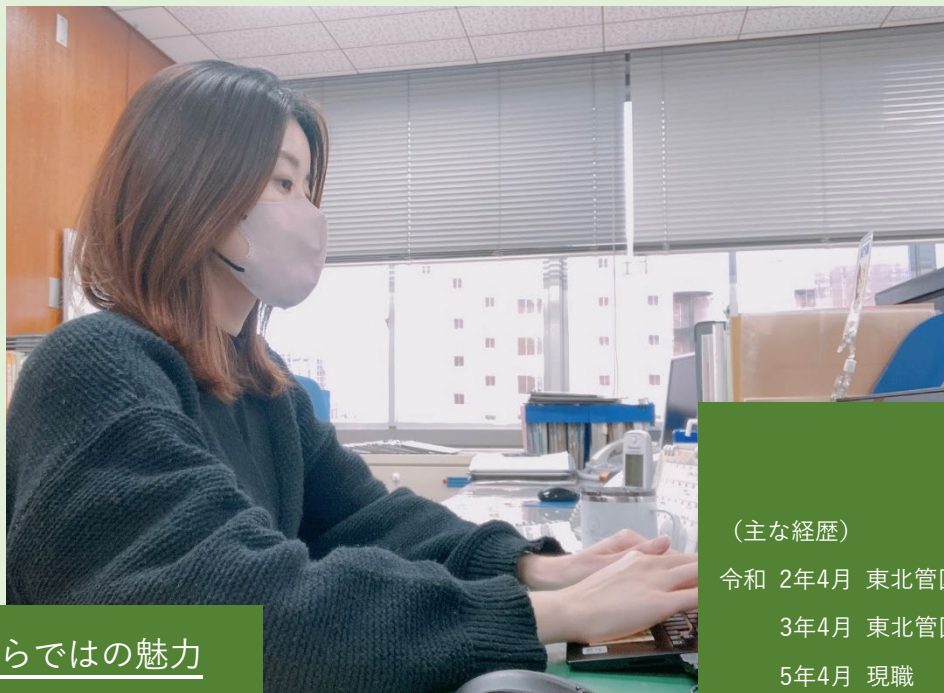
1、2年目の業務内容や研修制度についてより詳しく知りたい方は、官庁訪問やその前後に実施される説明会でぜひご質問ください！お会いできる日を楽しみにしています！

Private
Time

休日は、散歩をしながら喫茶店やカフェ巡りをしています。平日は地下鉄を利用することが多く、あまり外を見る機会がないため、休日は太陽の光を浴び、好きな喫茶店に行くことでリフレッシュしています！

当局の異動は、基本的に東北6県の県庁所在地ということで、各県で好きな喫茶店を見つけることを楽しみにしています。





少人数ならではの魅力

秋田行政監視行政相談センター 業務管理官

（主な経歴）

令和 2年4月 東北管区行政評価局採用

3年4月 東北管区行政評価局評価監視官室

5年4月 現職

【業務内容】

私は現在、秋田行政監視行政相談センターで、主に内部管理業務を担当しています。内部管理業務には、所長の秘書的な業務（庶務・調整業務）、センター内職員のサービスや健康管理に関する業務（人事業務）、庁舎や物品の管理に関する業務（会計業務）などがあります。

現在の業務に携わるようになってから、これまでの業務ではほとんど触れる機会がなかったような規定やマニュアルを目にしたり、勉強したりする機会も増えました。少しずつではありますが、経験を積むことができているのかなと感じています。

【職場の雰囲気】

センターは少人数ですが、その分、上司や同僚と積極的にコミュニケーションがとれるため、スムーズに仕事が進む環境にあると思います。

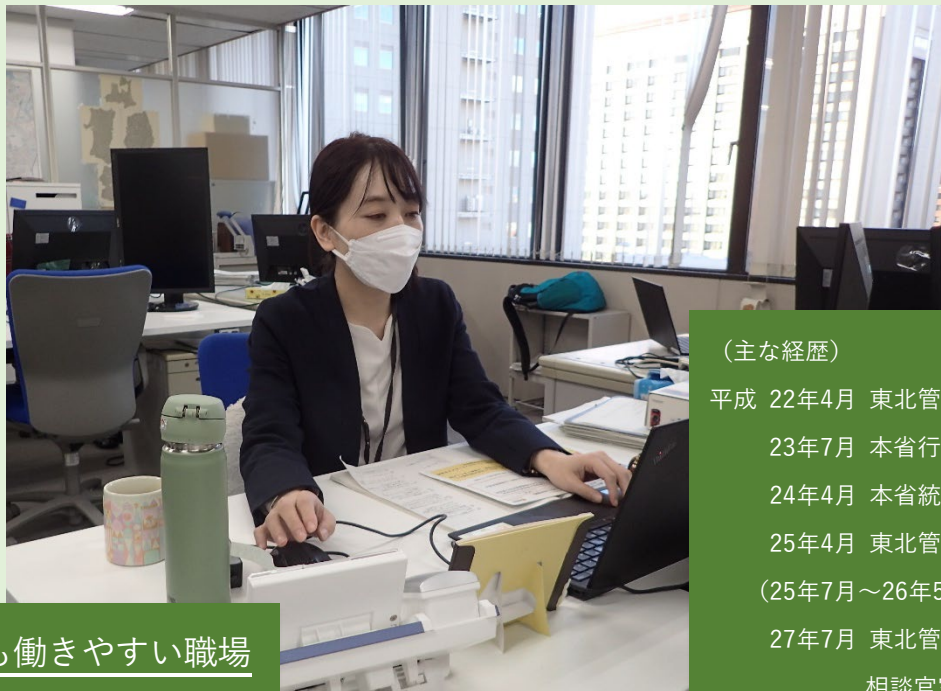
また、センターでは、行政相談委員の皆さんと関わる機会が多くあります。委員が主催・参加する地域のイベントのお手伝いをしたり、業務以外のお話をして盛り上がりたりと、仕事以外の部分でつながりができることも魅力の一つであると感じています。委員の皆さんは、豊富な知識や経験を持っているため、様々なジャンルのお話を聞くことができ、いつも楽しませていただいています。

Private Time

普段の休日は、自宅でのんびり過ごすことが多いですが、夏季休暇などある程度長いお休みがとれるときは、行ったことがない場所を旅行することが好きです。

ようやくコロナ禍が落ち着いてきたこともあり、遠出ができる機会も増えたので、次はどこに行こうかな～といつも楽しみを膨らませています。





子育て世代も働きやすい職場

東北管区行政評価局 第4 評価監視官室 評価監視調査官

(主な経歴)

平成 22年4月 東北管区行政評価局採用
 23年7月 本省行政評価局評価監視官室
 24年4月 本省統計局国勢統計課
 25年4月 東北管区行政評価局総務課
 (25年7月～26年5月 育児休業)
 27年7月 東北管区行政評価局首席行政
 相談官室
 (28年7月～29年5月 育児休業)
 31年4月 東北管区行政評価局評価監視官室
 令和 3年4月 山形行政監視行政相談センター
 5年4月 現職

【仕事と育児の両立】

私にはこどもが2人おり、それぞれ産前産後休暇と約1年間の育児休業を取得しました。その後、1日2時間まで勤務時間を短縮することができる育児時間制度、子の看護休暇など各種制度を活用しつつ、日々子育てに奮闘しています。

当局は、女性職員だけでなく、男性職員の育児休暇取得実績もあり、子を持つ職員に対する職場への理解はかなりあると感じています。制度の充実もさることながら、それが実際に活用できる環境であるのかということも、非常に重要なことだと思います。職場の配慮や支援があるからこそ、これまで仕事をしつつ日々のこども達の成長に関わることができており、本当にありがたいことだと思っています。

このほか、テレワークやフレックスタイム制など、育児という視点に限らず、広くワークライフバランスの実現が図られる環境が整っています。

当局業務に少しでも興味があれば、ぜひ説明会などにご参加いただき、職場の雰囲気や業務について、その一端を知っていただければと思います。

Private
Time

こども達に影響され、自分もピアノを習い始めました。全くの初心者のため、簡単な曲を両手で弾けるだけでも楽しく、ピアノの先生と音楽やこどものこと等雑談しながらのレッスンは、日頃の気分転換にもなっています。

発表会で長女との連弾も経験し、こどもとの貴重な思い出になりました。





ライフスタイルに合わせた働き方

山形行政監視行政相談センター 業務管理官

(主な経歴)

平成 28年4月 東北管区行政評価局採用
 29年4月 本省政策統括官（統計基準担当）
 30年4月 東北管区行政評価局評価監視官室
 令和 2年4月 東北管区行政評価局総務課
 5年4月 現職

皆さんこんにちは！数ある行政機関の中から当局に関心を寄せていただき、ありがとうございます。

私は山形行政監視行政相談センターに勤務し、総務大臣が委嘱する「行政相談委員」の活動を支援する業務を主に行っています。現在、3歳の息子がおり、育児と仕事の両立に励んでいますので、紹介したいと思います。

【遠方からの通勤や勤務時間】

私は、自宅のある仙台市から山形市まで高速バス（所要1時間ほど）で通勤しています。当局は、勤務地が仙台市を中心とした東北6県の県庁所在地であることも魅力の1つだと思います。本人の希望等により総務本省勤務も可能です。

勤務時間はフレックスタイム制等により、ライフスタイルに合わせて柔軟に変更でき、私の場合、通常より1時間早く出勤してその分早く帰宅し、息子のお風呂や寝かしつけ等々を行っています。

【テレワークや休暇制度】

当局ではテレワークの環境が整っているため、職場の理解と協力を得ながら、積極的にテレワークをしています。普段の通勤時間を家事等に充てることができ、大変助かっています。家族が体調不良の際は、年次休暇や子の看護休暇を併用しながら対応しています。

また、男性の育児に伴う休暇取得が推奨されており、私も約2か月間取得し、生後間もない息子との貴重な時間を過ごすことができました。

Private
Time

息子と一緒に公園や水族館、ショッピングモールに出かけることが多いです。特に水族館は雨の日でも遊べるので、年パスを買ってよく訪れますが、ペンギンが好きなようで、最近新しくできたペンギンのコーナーにべったりです。それだけ見て満足して帰ることもあります笑
 こどもの相手をしているようですが、逆に遊んでもらえるのも今のうちと思って、一緒に過ごす時間を大切にしています。





心に寄り添う仕事を

東北管区行政評価局 第3評価監視官室 上席評価監視調査官

(主な経歴)

平成 17年4月 東北管区行政評価局採用
18年4月 本省行政評価局
20年4月 秋田行政評価事務所
24年4月 福島行政評価事務所
27年4月 東北管区行政評価局総務課
30年4月 東北管区行政評価局評価監視官室
令和 2年4月 福島行政監視行政相談センター
5年4月 現職

早いもので平成17年度に入省して約20年が経過しましたが、これまでの経歴を振り返ってみると、行政相談業務7年、調査業務4年、年金記録確認第三者委員会業務4年、管理（総務）業務3年と様々な業務経験を積むことができていると感じています。

【印象に残っている業務】

東日本大震災による避難生活の長期化により、応急仮設住宅にお住まいの方々の生活不活発病や熱中症などが多発している状況を踏まえ、自治会長、保健師、健康運動指導士等の皆さんにご協力いただき、福島県内の応急仮設住宅で行政相談と健康相談を併せた相談所を開設しました。自分自身が被災者ではない中で支援活動を行う点でかなりの葛藤がありましたが、「聴いてくれてありがとう」とお礼の言葉を掛けていただく場面が多々あり、今でも強く印象に残っています。

【職場の環境整備で意識していること】

現在は調査業務の総括（課長補佐級）として、自身の業務のほか、室全体のスケジュールや進捗状況の管理を行っていますが、上司や室員と気軽にコミュニケーションを図ることを常に意識しています。チームで業務を進めていく上で最も重要なのは、「報連相や情報共有をしやすい雰囲気づくり」であると考えています。

Private
Time

私の最大のストレス発散方法は、なんと言っても「ライブ遠征」です。コロナ禍の影響によりしばらく自粛していましたが、今年度久し振りに札幌市まで遠征してきました。数年間心待ちにしていた声出しもようやく緩和されましたが、やはり「声出しライブ」はたまりません。写真は「B'z LIVE-GYM Pleasure 2023 -STARS- @札幌ドーム」です。





改革マインドを胸に

※写真左が著者

東北管区行政評価局 行政相談課 課長

(主な経歴)

平成 4年4月 東北管区行政監察局採用
(以後、管内各所で勤務)
15年4月 本省行政管理局
19年4月 山形行政評価事務所
(以後、管内各所で勤務)
31年4月 東北管区行政評価局総務課
令和 3年4月 本省行政評価局評価監視官室
4年4月 東北管区行政評価局評価監視官室
5年4月 現職

【「素朴な疑問」、そしてその先に？】

遊漁船、飲料メーカー、学校（給食施設）、動物用医薬品メーカー、アワビの増殖場、病院、空港（管制施設）、薬局、バス事業者、介護福祉施設、建設工事現場、ダム管理所、刑務所…とりとめもなく列挙しましたが、いずれもこれまで仕事で出向いた調査先の一例です。調査テーマは、その時々々の社会情勢などを反映して多様性に富んでいます。

これまで、管区行政評価局では、調査業務に12年、行政相談業務に10年、管理（総務）業務に5年従事しましたが、仕事柄、当局職員以外の人と接する機会が多くありますので、そうしたことが苦手ではない方、また、「素朴な疑問」や気づきからスタートして、その世界の常識や既存のやり方にとらわれないチャレンジ精神が旺盛な方には、活躍の場が多い職場と言えるかもしれません。

総務本省にも通算5年勤務しましたが、行政管理局では、行政手続法の改正作業（条文案の検討や内閣法制局審査への対応）や大規模災害時における被災者の権利利益の保全を図るための政令案の立案作業、国土交通省の組織・定員の査定、また、行政評価局では、全国調査の企画立案などに従事する機会があり、得がたい貴重な経験をしました。

変化の時代。改革マインドを胸に秘め、「こうしたらもっと良くなる」、「この対応はあんまり（理不尽）ではないか」、「これはやってみるべき」…など、前向きで創造志向の議論を是非と一緒に！

Private
Time

休日は買い物や料理のほか、自宅のリビングでバーチャルなアマ操縦士として、主に国内線のフライトに従事しています。航空路図や空港ごとに決められている離陸・着陸ルートを書いたチャート図などを確認しながら、定時・安全運航に努めています。雲海の彼方にあった地平線が光と影の境に消え、群青と橙のコントラストが夜のとばりに移りゆく様子を見ながらのフライトは癒やし効果大です。





くらしの中に

総務省